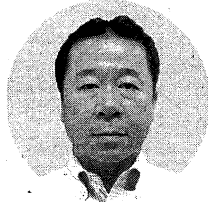


JFEシビル九州支店

売上高30億円超計画

16年度「メタルビル」拡販

【福岡】JFEシビル九州支店(米倉真也支店長)は2016年度の支店売上高を30億円に乗せる計画。九州・沖縄での立体駐車場で10億円の受注を目指すほか、同社システム建築商品「メタルビル」において施工店との協同営業と自社および商社のネットワークを活用した営業を行うことで、さらなる拡販を目指す。また、耐震・制震デバイスについても新築物件を中心に採用拡大を目指す。同社の本社支店連携や九州にあるJFEグループ各社およびその取引先との交流、システム建築協力をはじめとする取引先との密接な情報交換を行うことで、今年度の計画達成を目指す。



米倉支店長

立体駐車場10億円目指す

九州支店の15年度売上高は22億円で、当初は売上高20億円超は無かったことから、今期、立体駐車場部門は、

今年9月に完工予定の那覇空港立体駐車場が沖縄における同社の知名度向上に寄与。沖縄を中心に立体駐車場の引き合いが増加していることから、10億円の受注を計画する。

メタルビルワーク工事(システム建築)部門はゼネコンやシステム建築施工店との協同営業を強化する。①現場で部材を生産する工



二重鋼管座屈補剛ブレースが採用されたJRP博多ビル

業化製品のため、在来工法よりも短工期・低コストであること②基礎梁が無く杭と柱一体工法の「いちいち基礎工法」を採用できる地盤状況なら、地面の掘削量が減るエコな工法であること③メタルビルの採用でゼネコンは現場労務費を削減でき

改修工事での実績は多

る。二重鋼管座屈補剛ブレースが採用されたJRP博多ビルにアピールしていく。同社は「二重鋼管座屈補剛ブレース」や「ハーフ十字ブレース」、JRPブレースをほじめてとするブレース商品

のほか、間柱型や壁型の耐震・制震デバイスなどをそろえる。全国での採用率は高く、九州では今年オープンしたJRP博多ビルに

いが、九州における新築建物での採用は初めて。九州支店としてさらなる受注増を目指す。

同社は熊本地震において、メタルビルや耐震・制震デバイスについて被災状況を調査したが、「大きな被害は無かった(九州支店)という。建設費の高騰や現場管理者の不足なども予想されるが、耐震性能は実証されているとみて、短工期・低コストのメタルビルと耐震・制震デバイスを復興に貢献していく考え。